

れき じん

となん歴史民だより vol.29

Morioka tonan history and folklore museum

平成23年12月27日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228



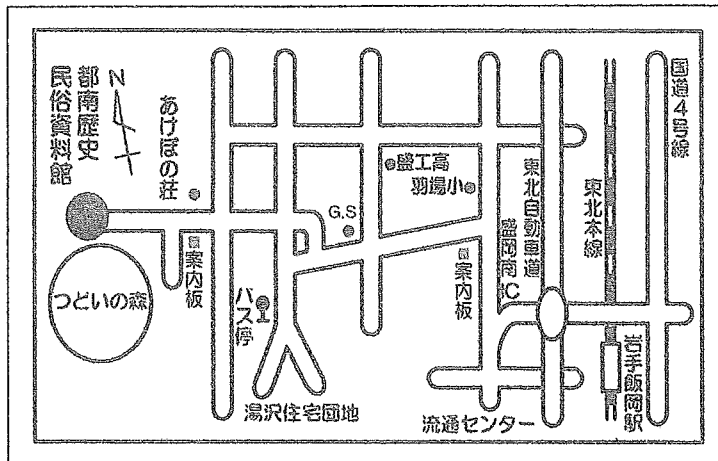
市民参加展「澤井敬一コレクション 懐かしのポスター展」
(展示風景/現在終了)

是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

- ・〈特別寄稿〉
高橋博恭「福荷街道・高畑峠から」
- ・玉山歴史民俗資料館紹介
- ・市民参加展報告
- ・資料は語る④
- ・盛岡市所在
指定・登録文化財紹介④
- ・となんの昔ばなし④

MAP☆ACCESS



○利用案内

- 開館時間 午前9時から
午後4時まで
- 入館料 無 料
- 休館日 月曜日
(休日に当たるときは、
直近の平日)
年末年始

稲荷街道・高畑峠から

岩手城郭研究所 高橋 博恭

紫波町西方の東根山（標高928m）山麓を通る稲荷街道、その最高所に高畑峠（238m付近）がある。矢巾町和味と紫波町南伝法寺の境目にあたり、東根連山から東方に突き出た北谷地山の山塊の陰となっている。盛岡市津志田の川久保で奥州街道と分かれ、矢巾町広宮沢の林間に入り、煙山、和味の樹冠の下を通る稲荷街道の中では、唯一この街道の起点が望まれる場所で、辛うじて北の城内山と手前の北谷地山の山際に盛岡の街が覗く。峠の下30m程の沢沿いを、西部開拓線（昭和62年、正式路線名に整備改称）が南北に縦貫しており、これを一般には稲荷街道と呼び、市販の地図類にもこの名称で標記されている。しかし、口碑や藩政期の村絵図、明治初期の地籍図等に照らしてみると、この峠付近の街道は、北側の坂の下にある田沢ダム（平成元年、県営ため池として竣工）のダムサイト西寄りから上り、不動温泉百万石の駐車場を抜け、さらに隣の矢巾総合射撃場の敷地に入り、同事務所の東縁をやや西向きに北谷地山の山壁を巻きこみながら、スロープ状にせりあがる位置にあった。すでに廃道となって久しいが、現在も林内に全長110m内外にわたって踏み固められた道の形が残っている。頂部付近の路面幅は現状11m、尾根側の法高が1.1m、沢に面した土塁の底幅は2.6mで、この絵幅員は明治初期の『岩手県管轄地誌』にある和味村部分の道幅8間とも見合うものであり、この遺構は街道の最後の姿を伝えている。稲荷街道の道路遺構としては、紫波町と矢巾町に各一ヶ所保護されているが、紫波町上松本宇秋祭に残っているものは民家敷地と農道に狭められ、矢巾町煙山の松並木も植生保存はあるが片側の桜並木で拡張されているなど、いずれも後世の改変が進んだため、当時の街道の原形をとどめているのは、今ではこの高畑峠のである。

この峠は藩主が小休止する籠立場と伝わっており、『志和稲荷新道切披御用書』（不動村誌所収）には、「坂の上に長之助松とて松一本有之其上に御籠建場有之」とある。また『志和稲荷御道筋絵図』（志和稲荷神社所蔵）には「高畑山」と「高畑峠」が表記され、『志和稲荷街道詳細図』（都南歴史民俗資料館所蔵）では籠立場とみられる道の中央に巨石が描かれている。これが古老の伝える「籠立場の石」にあたるものか、現在も峠を上りきるあたりに周径3m程の大石が2個存在する。また峠の350m手前、現在の田沢ダムの中央付近は、村絵図等から名称を拾ってみると、谷地川、虚空蔵尻流、七滝川、谷川（別書では田沢川）、麓川と5本の沢がこの付近に蟠集しているのである。狭く不安定な地盤に幾筋もの沢が合流するため、この街道普請の中でも最も困難を極めた場所と想像される。前掲の『新道切披御用書』にも「高畑山坂の下一体石敷上に砂持」とあり、単なる土橋・板橋では間に合わず石を敷くまでに地拵えの必要のあったことが窺われる。天保6年（1835年）の5月9日、諸書の記録に間違いがなければ、南部家38代藩主利済の稲荷参詣の行列が、この高畑峠に籠を休めたはずである。その前年10月に着工した稲荷新道が冬季に一旦中断したものの、明けて3月に完成を見、そしてこの新道での初の志和稲荷社参であった。『国統年表』によれば、工事費・謝礼・奉納などの総費用600両は、御側、つまり藩主の私費「奥」から出されている。藩主利済については、幕命による北方警備の負担と天保大飢饉のさなか、経済的積極策が必ずしも成功しなかったため、その治世の功罪に極端な評価がなされてきたが、この志和稲荷街道については善政の一つとして今も当地方に語り継がれている。

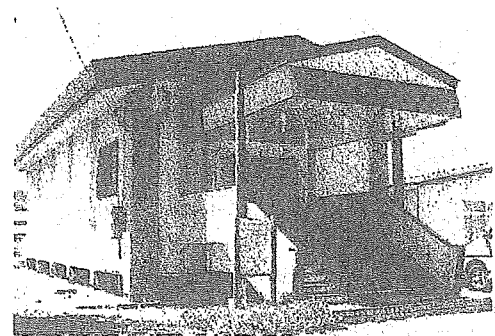
盛岡市玉山歴史民俗資料館紹介

巻堀小学校で教育の一環として巻堀小学校の児童、地区民が一体となり、地域に伝わる土器・石器・民具などの多数の資料を収集し、校内の郷土資料室に展示していました。巻堀小学校の創立百周年を迎えるにあたって記念事業として、また、祖先の文化遺産を永く保存活用するため別棟に記念資料館の設計計画が企画されました。これを契機として次第に地区民のみならず村全体の郷土資料展示館としての計画に発展し、地元からの寄付や敷地提供、文化庁や県からの助成により、昭和52年3月31日玉山村歴史民俗資料館として竣工しました。平成18年8月16日より玉山歴史民俗資料館として運営しています。

また、浜民公民館では様々な催し物や企画展を行っております。尚、浜民公民館は11月8日に優良公民館として文部科学省大臣表彰を受賞いたしました。是非ご来館ください。また、ご利用の方は下記のお問い合わせ先にご連絡ください。

参考・引用：玉山歴史民俗資料館パンフレット

- ◆開館時間：9:00～16:00（見学時は事前に予約が必要）
- ◆休館日：毎週月曜（祝祭日の場合ときは翌日）年末年始
- ◆入館：無料
- ◆所在地：盛岡市玉山区巻堀字巻堀33-2
- ◆お問い合わせ：浜民文化会館（019-683-3526）
- ◆展示内容：考古資料・歴史資料・民俗資料



資料館外観

資料は語る⑳

軍服の襟裏には「第五連隊補充大隊第三中隊明治廿七年供用」と記されており、肩章には第五連隊の「5」という数字が施されている。第五連隊は、明治10年（1877）、仙台鎮台第五連隊区として青森に編成されている。

当時、盛岡から入隊する者の多くは、この第五連隊に入隊する者が多かった。明治27年（1894）は、日清戦争開戦の年でもある。補充大隊ということからこの軍服を着た人物は兵員補充のため召集され、青森港から戦地に赴いたのであろう。また、第五連隊といえば八甲田雪中行軍遭難事件が有名である。雪中行軍での犠牲者は199人、この内149人は岩手県出身者であった。盛岡市見前（当時見前村西見前）出身の藤川善太郎二等兵1名がこの事件で遭難死している。



大日本帝国陸軍軍服

【参考文献】都南村誌編集委員会『都南村誌』都南村、1974。



住吉神社の石灯籠（4座4対）

文化元年（1804）から同8年にかけて、住吉神社に奉納された4座4対の合計8基の石灯籠です。8基とも花崗岩製で、文化2年（1805）奉納の第4座をのぞき竿部分には「海上安全」、そして「大坂問屋中」の刻字があり、京阪方面との経済取引に関係した人々が住吉信仰に基づき航海安全を祈願して奉納したものであることが分かります。また、それぞれの台座部分には願主の刻銘があり、近江屋・渋屋といった盛岡城下の豪商が名を連ねています。住吉神社は、寛政7年（1795）に厨川村境田川原（現北夕顔瀬町）から現在地である新庄藤ヶ森に遷座され藤ヶ森住吉大明神と称されていました。

参考・引用資料：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』、2008。

とんの昔ばなし二十九

「十六羅漢」

盛岡藩は、元禄・宝暦・天明・天保の四大飢饉で多くの餓死者を出しました。盛岡の祇陀寺の天然和尚は、飯岡山が昔から神様や仏様のいわれある場所で、その山腹には仏像に似かよった奇石があることを思い出し、その石で亡くなった人々を弔いたいと考えました。

そして、盛岡藩内で喜捨修行をし、その浄財で工事にとりかかりました。その仏様が五智如来という五体の仏様と十六羅漢という十六体の仏様でした。石工らは三年の間、飯岡山で荒刻みをし、その石を村の人々が仙北町の長松寺まで運び、それから北上川を舟で渡り宗竜寺まで運びました。仏像をつくりはじめて十三年目でようやく完成しましたが、天然和尚は完成を見ることなく亡くなり、弟子の長松寺泰恩和尚がその志を引き継ぎ完成までこぎ着けました。

宗竜寺もその後火事で焼けてしまいました。現在、その場所はお馴染みの羅漢公園として市民の憩い場へと姿を変えています。